



シラバス参照

タイトル「**2015年度 経済学部シラバス**」、フォルダ「**2015年度 経済学部シラバス—専門科目（基礎専門科目）**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	ミクロ経済学																																																																		
担当教員	太田 勝憲																																																																		
対象学年		クラス																																																																	
講義室		開講学期	後期																																																																
曜日・時限	月4,水4	単位区分																																																																	
授業形態	講義	単位数	4																																																																
準備事項																																																																			
備考	標準履修年次 1年次																																																																		
科目名（英語表記）	Microeconomics																																																																		
授業の概要・ねらい	<p>ミクロ経済学は、個々の経済主体の意思決定を考察し、その結果を集計して、経済社会を記述・評価する学問です。具体的には、消費者と生産者の合理的意思決定に基づいた需要法則と供給法則を学び、さらに、希少資源の配分問題を解く1つの経済メカニズムである「市場メカニズム」を学びます。</p> <p>ミクロ経済学は多くの応用科目の基礎となるので、出来るだけ早い段階での履修を勧めます。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ミクロ経済学の対象と分析方法</td> <td>16</td> <td>市場機構と厚生1：部分均衡分析の基礎</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>消費者行動1：選好と無差別曲線</td> <td>17</td> <td>市場機構と厚生2：部分均衡における競争均衡の安定性</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>消費者行動2：効用関数と限界代替率</td> <td>18</td> <td>市場機構と厚生3：準線形効用関数と消費者余剰</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>消費者行動3：予算制約、最適消費計画</td> <td>19</td> <td>市場機構と厚生4：生産者余剰と余剰分析による市場機構の評価</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>消費者行動4：需要関数と比較静学（所得と需要の関係）</td> <td>20</td> <td>市場機構と厚生5：純粋交換経済の一般均衡分析</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>消費者行動5：需要関数と比較静学（価格と需要の関係）</td> <td>21</td> <td>市場機構と厚生6：資源配分のパレート効率性と厚生経済学の基本定理</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>消費者行動6：弾力性</td> <td>22</td> <td>市場機構と厚生7：生産経済の一般均衡分析</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>消費者行動7：スルツキー分解</td> <td>23</td> <td>市場機構と厚生8：市場機構の限界</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>消費者行動8：応用（労働供給、異時点間の最適消費）</td> <td>24</td> <td>市場の失敗1：外部性</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>生産者行動1：技術</td> <td>25</td> <td>市場の失敗2：ピグー税、コースの定理</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>生産者行動2：生産関数を用いた利潤最大化</td> <td>26</td> <td>市場の失敗3：公共財</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>生産者行動3：費用最小化と費用関数を用いた利潤最大化</td> <td>27</td> <td>不完全競争市場1：独占の要因と独占企業の行動</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>生産者行動4：費用関数の性質と供給曲線</td> <td>28</td> <td>不完全競争2：自然独占と規制</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>生産者行動5：長期と短期</td> <td>29</td> <td>不完全競争3：寡占市場の分析とゲーム理論の基礎</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ここまでのまとめと中間試験</td> <td>30</td> <td>不確実性と期待効用仮説</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	回	内容	1	ミクロ経済学の対象と分析方法	16	市場機構と厚生1：部分均衡分析の基礎	2	消費者行動1：選好と無差別曲線	17	市場機構と厚生2：部分均衡における競争均衡の安定性	3	消費者行動2：効用関数と限界代替率	18	市場機構と厚生3：準線形効用関数と消費者余剰	4	消費者行動3：予算制約、最適消費計画	19	市場機構と厚生4：生産者余剰と余剰分析による市場機構の評価	5	消費者行動4：需要関数と比較静学（所得と需要の関係）	20	市場機構と厚生5：純粋交換経済の一般均衡分析	6	消費者行動5：需要関数と比較静学（価格と需要の関係）	21	市場機構と厚生6：資源配分のパレート効率性と厚生経済学の基本定理	7	消費者行動6：弾力性	22	市場機構と厚生7：生産経済の一般均衡分析	8	消費者行動7：スルツキー分解	23	市場機構と厚生8：市場機構の限界	9	消費者行動8：応用（労働供給、異時点間の最適消費）	24	市場の失敗1：外部性	10	生産者行動1：技術	25	市場の失敗2：ピグー税、コースの定理	11	生産者行動2：生産関数を用いた利潤最大化	26	市場の失敗3：公共財	12	生産者行動3：費用最小化と費用関数を用いた利潤最大化	27	不完全競争市場1：独占の要因と独占企業の行動	13	生産者行動4：費用関数の性質と供給曲線	28	不完全競争2：自然独占と規制	14	生産者行動5：長期と短期	29	不完全競争3：寡占市場の分析とゲーム理論の基礎	15	ここまでのまとめと中間試験	30	不確実性と期待効用仮説		
回	内容	回	内容																																																																
1	ミクロ経済学の対象と分析方法	16	市場機構と厚生1：部分均衡分析の基礎																																																																
2	消費者行動1：選好と無差別曲線	17	市場機構と厚生2：部分均衡における競争均衡の安定性																																																																
3	消費者行動2：効用関数と限界代替率	18	市場機構と厚生3：準線形効用関数と消費者余剰																																																																
4	消費者行動3：予算制約、最適消費計画	19	市場機構と厚生4：生産者余剰と余剰分析による市場機構の評価																																																																
5	消費者行動4：需要関数と比較静学（所得と需要の関係）	20	市場機構と厚生5：純粋交換経済の一般均衡分析																																																																
6	消費者行動5：需要関数と比較静学（価格と需要の関係）	21	市場機構と厚生6：資源配分のパレート効率性と厚生経済学の基本定理																																																																
7	消費者行動6：弾力性	22	市場機構と厚生7：生産経済の一般均衡分析																																																																
8	消費者行動7：スルツキー分解	23	市場機構と厚生8：市場機構の限界																																																																
9	消費者行動8：応用（労働供給、異時点間の最適消費）	24	市場の失敗1：外部性																																																																
10	生産者行動1：技術	25	市場の失敗2：ピグー税、コースの定理																																																																
11	生産者行動2：生産関数を用いた利潤最大化	26	市場の失敗3：公共財																																																																
12	生産者行動3：費用最小化と費用関数を用いた利潤最大化	27	不完全競争市場1：独占の要因と独占企業の行動																																																																
13	生産者行動4：費用関数の性質と供給曲線	28	不完全競争2：自然独占と規制																																																																
14	生産者行動5：長期と短期	29	不完全競争3：寡占市場の分析とゲーム理論の基礎																																																																
15	ここまでのまとめと中間試験	30	不確実性と期待効用仮説																																																																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ミクロ経済学の基本的な考え方である、コストとベネフィットの相対評価の視点を理解すること。 身の回りの出来事や経済ニュースについて、ミクロ経済学の視点から評価できるようになること。 																																																																		

	・公務員試験など各種資格試験で出題されるミクロ経済学の問題を自力で解けるようになること。
成績評価の方法	中間試験と期末試験の総合成績で評価する。
教科書	特に指定しません。講義ノートと練習問題の解答や下記の参考書を活用して復習してください。
参考書・参考文献	神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社 ハル・ヴァリアン『入門ミクロ経済学』勁草書房 入谷純・篠塚友一『ミクロ経済学講義』日本経済新聞社 芦谷政浩『ミクロ経済学』有斐閣 神戸伸輔・寛多康弘・濱田弘潤『ミクロ経済学をつかむ』有斐閣 など
履修上の注意・メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な概念の多いミクロ経済学は難しいと思われがちですが、その根本にある考え方は一貫したものであり、根気強く論理展開を追いかければ習得は可能です。 ・ミクロ経済学は、経済学の最も重要な基礎理論です。ミクロ経済学を学ばずに、経済学部（特に、経済学科）を卒業することは、食品偽装と同じく「看板に偽り有り」です。 ・先輩からの噂話に、「難しい」とか「しんどい」とかいう評判があるかもしれませんが、4年間で1つくらいは、真面目に学ぶ講義を見つけてほしいですし、その講義がミクロ経済学であることを願っています。
履修する上で必要な事項	
受講を推奨する関連科目	経済数学Ⅰ・ゲーム理論・産業組織論・マクロ経済学・国際経済学・財政学・ファイナンスⅠ、Ⅱ・経済統計学Ⅰ、Ⅱ・エコノメトリクスⅠ、Ⅱ
授業時間外学習についての指示	毎週、講義ノートを、最低でも1度は読み直してください。 そのとき、分からないところがあれば、まずは、参考書などを使って、自分の頭で考えてみてください。それでも分かなければ、オフィスアワーなどを活用して、教員に質問してください。 要するに、疑問点を見つけて、その疑問を解消するのが講義時間外の学習です。
その他連絡事項	

